レッスン：PYR35

テーマ：創造界の元型の役割

KE06 No.1 12/10/05

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかにいます。

 以前のレッスンで、創造界の様々な法則を象徴する様々なシンボルについてたくさん述べてきました。それらの法則は創造界の最大の法則、いわゆる創造の元型またはセルですが、この元型を私たちは生命の木とも呼んでいます。

　ですから、創造界の全ての法則はこの大きなシンボル、最大の骨組みの中にあります。しかしそれはまた最小の骨組みでもあります。何回も述べたようにLifeが創造界において表現され、その本質を完全に現し続けるためには、あるフォームが必要です。そしてそのフォームとは天人(Heavenly Man)のフォームであり、今、元型としての人間のイデアフォームがあります。しかし、勿論、レッスンで述べたように、このイデアを通じて現れがLifeの本質を完全に“表現できるようになる”能力あるいは可能性を提供するのは人間のイデアだけではありません。様々なイデアを通じたあらゆる現れがLifeの本質を完全に表現する手段としてこのフォームを使用しなければならないのです。

　さて、「手段として」と言いましたが、手段を使うというその手段とは何でしょうか？　イデアフォーム；それは単なるイデアでしょうか、あるいはヒポスタシスを取る必要があるのでしょうか；何らかのヒポスタシスがあるのでしょうか？答えはイエスです。そしてこのヒポスタシスは何からできているのでしょうか？過去の多くのレッスンで、いわゆるマインドについて話しました。そしてマインドは聖なるものであり、それはLifeの本質から来るものであり、それは聖霊ではないと言いました。そして私たちは今このマインドを創造界における様々な波動の現れのなかで「見いだし」ます。

　スーパーサブスタンスとしてのマインドがあり、それは存在の諸世界（それは4つの高位のヘブンです）において見いだされます。そこではLifeがその本質を完全に現しています。そして勿論、前に述べたようにLifeがその本質を完全に現すということは、マインドがLifeのスパークのための元型であるイデアフォームを完全に有しているということです。私はマインド、フォームといいました、ですからマインドは手段であり、マインドがその形、そのフォームを取るのです。

　そしてマインドのもう一つの波動があり、それはサブスタンスでありスーパーサブスタンスではありません；それはどこにあるでしょうか？ Lifeがその微細な部分を現す諸世界であり、そこではマインドとしてのサブスタンスを見いだすことができます；Lifeというとき私たちは魂のセルフエピグノシスを意味します。この諸世界において神の黙想の仕事が徐々に、ゆっくりと達成されようとしています。そしてそれらは実在の諸世界と私たちが呼ぶ世界であり、それらは低次の3つのヘブンです。

　勿論、サブスタンスは高次ノエティカル界、またはノエティカル界にも見いだされます。そしてもしそれらの諸世界を現在のパーソナリティーと関連させるなら、それらの諸世界は現在のパーソナリティーのノエティカル体の波動と対応します。

Page2

　さて、マインドのもう一つの波動は私たちが超物質(supermatter)と呼ぶものです。それは現在のパーソナリティーに関してはサイキカル体です。そしてマインドの最も低い波動、それは物質であり人間でいえば肉体です。

　さて現在のパーソナリティーのサイキカル体とノエティカル体は現れです。それらの現れはどこから来るのでしょうか？それらはロゴスの現れの結果です、それらは築かれたものではなく、ロゴス的な現れであり、そして現在のパーソナリティーがあります。しかし、現在のパーソナリティーがマインドの一番低い波動において表現されるためには肉体が必要であり、それは勿論物質です。そして物質が存在し、実在するためには聖霊的に築かれる必要があります。そして聖霊があり、様々なアークエンジェルのオーダーが肉体を築きます…現在のパーソナリティーが実存の波動のなかで表現されるために肉体を使用します。

　ですから手段としてのマインドがあります。それを通じてLifeの現れが表現されるのです。過去に、「全てはマインドであり、マインドを通じてLifeの現れがある」と言いました。そうです、実存の諸世界でそれ自身を現しているもの、つまりヒポスタシス（＊ある状態）を有して実在しているもの全て、それらはマインドを使用しています。それ以外の方法はありません。すべての現れは実存の諸世界においてはマインドの様々な波動を使用しています。

　さて、それら全てのシンボル、つまりLifeの現れがマインドの使用を通して様々な表現のなかに入るのを助けたそれらの法則は、生命の木の上に見いだすことができます。

　さて、Lifeのスパークが現れを活性化するのを助けたそれらの法則があり、それらの現れはLifeの本質を引き続き表現することがありません。それらの法則はマインドの低次の波動のなかにあります。そして前に説明したように、低次のマインドは実存の諸世界のためのものであり、現在のパーソナリティーの諸世界のためのものです。

　もちろん、そのようなことが起きるのは、Lifeのスパークによって活性化された現れが一番低い波動つまり物質の波動を帯びる時だけです。それは聖霊的に築かれる体です。そしてそれが起きる時、それはその現れがある特定の惑星上で表現されるということを意味します。

　知っているとおり、惑星の形は球体をしています。サイコノエティカル体は初めは元型である人間のイデアのフォームとマッチしていました。しかし、その瞬間からその形は惑星の形を帯びるのです。2つの体は球体になり、一つがもう一つの中にあります。しかし一度それらが肉体とつながると、現在のパーソナリティーとしてのその現れは、それが使用する肉体の健康に影響を与えるようになります。そしてもう一つの球体も他の2つの中にあり、3つ全部が同じセンターを共有するようになります。この球体が肉体の健康に対応します。

　現在のパーソナリティーの現れがLifeの本質を完全に表現することなく、毎日の生活で、実存の諸世界で機能していくと肉体の健康に影響をもたらします。ですから、思考・行動の仕方は肉体に影響を及ぼすのです。

　さて、Lifeのスパークを助けたそれらの法則について述べました。それによってスパークによって活性化したそのパーソナリティーは制限ある現れの中に入っていきます。同じ法則が今、現在のパーソナリティーを助け、現在のパーソナリティーは少しずつゆっくりとLifeをより多く表現するようになっていきます。言い換えれば、彼等は気づきが上昇するのを助けるのです。しかし勿論それが可能になるためには、そのパーソナリティーは同時に自分自身についてワークをする必要があり、そして同時に法則も助けることでしょう。人生における全ての良いことは一生懸命に努力した結果として得られます。

　全ての法則はそのパーソナリティーを助けてきました。四面ピラミッドによって象徴される法則があり、三面ピラミッドによって象徴される法則もあり、そして五面ピラミッドによって象徴されるものもあります。もちろん、五芒星、六芒星、七芒星、八芒星、そして14芒星のようなシンボルもあります。過去のレッスンで私たちはそれら全てについて見て来ました。

　Lifeの本質をもっと現すために、真剣な探求者に何が期待されているでしょうか？Lifeの本質とは何でしょうか？Lifeとは何でしょうか？Lifeはアガピであり、Lifeは絶対真理であり、絶対リアリティーであり、Lifeは神です。Lifeは創造界における全ての原因です。Lifeは全てであり、命がないと考えられるような物のなかにもLifeがあります。ですから、Lifeは全ての中にあり、そして全てはLifeのなかにあるのです。

　Page3

 　ですから、私たちがLifeそれ自体からより多くを現せば、より多くのアガピを現すようになり、徐々に私たちはこのアガピを広げていきます。なぜなら、前に説明したように、Lifeは全てのなかにあり、そして全てはLifeの中にあるからです。私たちはもっともっと創造界を、そして創造界のなかにある全てを抱きしめることができるようになります。私たちは自然を抱きしめることができるようになるでしょう。しかし、同時に現在のパーソナリティーとしての自分自身というものを理解できるようになります。なぜならば、そうでなければ、何であれ自分の周囲にあるものを理解することはできないからです。

　レッスンのなかで、まず最初に私たちは自分自身を愛し、自分自身にアガピを現すべきである、と言いました。自分にアガピを現すということは、鏡の中の自分の姿、像に魅了されるということではありません。むしろ、アガピと理解を表現することです。なぜなら､結局私たちの内なるセルフ（Inner Self） はアガピであり、Lifeのスパークだからです。そしてこのLifeのスパークは神と一つです。Lifeの海から来るそのスパークを私たちは天人（天上人）と呼んでいるのです。

　ですから、私たちの努力とは自分自身のセルフselfに対してアガピと理解を現すことであり、Lifeからより多くを現しながら、徐々に少しずつ他の全ての同胞の人間達を抱きしめることができるようになるのです；最初は自分達の身近な人達、そして徐々に全ての人々を平等に抱きしめるのです。なぜなら、実際誰もが主だからです。

　これが真剣な探求者としての私たちのするべき努力です、主のアガピを現すことです。なぜなら、主のアガピは実際に私たちの内側にあり、私たちは現在のパーソナリティーとしてそれを現すことができるのです。なぜなら、何であれ私たちが現すものは、それを外側から受け取っているのではなく、内側から外側へ現すからです。

　そして、創造界、全体としての宇宙に様々な法則、それら全ての法則があると言う時、それらは“何処にある”と思いますか？Lifeの中には全てがあり、全てはLifeのなかにあります…最大から最小まで。ですから、Lifeとは創造界全体の宇宙そのものよりもずっと大きなものです。

　私たちはLifeをLifeのスパークよりも大きな何かであると考えますか？答えはノーです。ですから私たちの内側にあるそのLifeのスパーク、それは勿論魂のセルフエピグノシスからの微細なスパークであり、魂のセルフエピグノシスもまた微細であり、それはスピリットセルフからのスパークです。それでも、私たちの内側にある小さなLifeのスパークはLifeであり、Lifeの本質を完全に現すLifeの能力があります。なぜなら内側にあるそのLifeのスパークの体は天人（天上人）の体だからです。私たちの内側にいるのは実際には主なのです。

　ですから、全ての法則、創造界全体すらも私たちの内側にあるこのLifeの小さなスパークの中にあるのです。そうです、パーソナリティーが内側にあるLifeの本質を完全に表現するとき、そのパーソナリティーは創造界の全ての法則と協力することができるのです。

　原因結果の法則があると言う時、そしてパーソナリティー、あるいは不可視のヘルパーが協力すると言う時、なぜならそれはその時不可視のヘルパーとして、あるいはディバインの恩寵として、あるいは何であれ内側にある法則として、その人の内側にあるからです。しかし同時に、そのLifeのスパークは創造界全体を包みこむことができ、そのスパークと比較すると創造界は小さなものなのです。

　その微細なスパークが同時にワンネスの多重性を包含することができるのです…もし脳によってそれを理解することができるならば。

　ですから、真剣な探求者はこうあるべきなのです；現在のパーソナリティーとしてのその人を活性化して生かしているそれにより近づいていくということです。実際、現在のパーソナリティーはレッスンで述べたように影であり、その影が徐々にどんどん小さくなり、その結果、現在のパーソナリティーはもっともっとLifeを現すようになるのです。そしてサイコノエティカルとしての体は肉体のなかで徐々に天人の体の形を帯びていくのです。実際、サイコノエティカル体はその中にあるLifeのスパークの体を取るべきなのです。それは外側に見いだす体ではなく、すでに内側にあるのです。

Page4

Q：自分を愛するということをもう少し説明してくれますか？肉体面、三次元的面とは別にして、本当に愛するということを、そしてどのような方向に行くべきなのでしょうか？

K：まず、レッスンで述べたように、現在のパーソナリティーが自分自身の思考・行動の仕方の現実のレベルを知ることです。つまり気づきのレベルを知ることです。そしてそれが可能となるためには、現在のパーソナリティーは多くの努力をする必要があります。多くの自己観察、自己分析、内省、洞察などです。そして物差し、基準としての知識を使って、自分が他の人々に対して日常生活のなかでどのような態度行動を取っているかを比較するのです。

　言い換えれば、そのパーソナリティーは役者としての衣装を脱ぎ捨てるのです。そうすることによって、その人は自分の気づきの真のレベルを現します、そしてそこには勿論二元性があります。そして二元性というとき、それは2つの小さなエゴを意味します；なぜならレッスンで述べたように、現在のパーソナリティーとは実際二元性であり、それは2つの小さなエゴです。説明したように、2つのエゴは最初は一つになっています、そして多くの転生を重ねた後に、それが分離してきます。そして2つのうちの一つは静止しており、他方はLifeのスパークに向けて移動し始めます。

　そして、2つが分離した後、その距離が長くなればなるほど、その人はLifeそれ自体からより多くを現すようになります。これが起きる時、私たちはいわゆる罪悪感を抱くようになります。自分の観察、内省、洞察などの結果として、自分の行動に対する理解を現す努力をすることです、特に、例えば、他の同胞の人間達に対して取るべきであった態度、行動を自分が取らなかった時。私たちは自分の内側で争いをすべきではありません、その場合の争いとは2つの小さなエゴの間の争いのことです。なぜなら、それは現在のパーソナリティーであり、Lifeのスパークではないからです。

　さて、このような自己観察のワークを続けることによって、徐々に何が正しくて、何が悪いかがわかってきます。そして、真のセルフとはそれまで考えてきたようなものではなく、もっと大きなものであり、今のところ自分では触れることができず、現すことのできないものだとわかってきます。そしてそれがわかることによって、私たちはアガピを現し始めるのです、既に内側にあるアガピを。これが自己イメージに魅了されない、ということです。

Q：四面ピラミッドのなかで行うエクササイズで、自分の意識を真の自己、ウリエルのサイドに転送するというものがありますが、これはそのような意味（＊気づきを高める）での助けになるのでしょうか？

K:勿論です。この方向に向けての多くのエクササイズを与えてきました。しかし、いいですか、愛、Lifeそれ自体のアガピを現し始める前に、私たちはアガピの様々な相対的なレベルを現します。勿論、既に内側にあるがまだ表現されていない真のアガピを表現することを求めるべきです。しかしアガピから多くを現し始めるにあたって、私たちはまず自分自身のセルフ（それは勿論アガピのスパークですが）に向けてアガピを現すべきです。私たちが愛そうとするのはそのセルフです。それが私が意味することです。しかし、そのスパークにどれだけ近いアガピを私たちが現すか、それはその人の気づきのレベルによります。

　しかし、もし私たちがそれをしなければ、誰にたいしてもアガピを現すことができず、エゴだけを刺激するような愛に留まるでしょう。（＊そのような時）私たちがアガピとして現すものは自分のエゴを刺激するだけのものとなり、それ以外の何ものでもないでしょう。私たちが「愛する」という時、自分のセルフに向けてエロティシズムを現わさないで、アガピまたはエロティシズムを誰かに向けています。しかし、それは本当のエロティシズムではありません。それは真のアガピではありません。それは自分自身のエゴを刺激するだけです。

Q：それは静止しているエゴを刺激するのですか？

K：勿論です。そのエゴとは2つの小さなエゴの中のより小さいエゴに根ざしているものです。

Page5

Q：しかし、私たちが誰かを愛しているということをどのようにして実際に知ることができるのでしょうか？実際に私たちは相手を愛するのでしょうか？

K：あなたが実際に誰かを愛し始める時、あなたはそれがわかるでしょう。自分が愛しているか否かを判断するのは自分だけです。

人間は相対的アガピの様々なレベルを昇って行くことによって、この真のアガピ、絶対的アガピに近づいていきます。真剣な探求者は絶対ではなく、まず相対的リアリティーの様々なレベルにアプローチしていく、と私たちは述べました。実際、アガピとは何でしょう？前に説明しましたが、実在の諸世界においては、アガピはエロティシズムと同じです。

　しかし、エロティシズムがセックスと関係するか否かは別問題です。しかし、実際それはエロティシズムと結びつくべきです。なぜなら人間は結局動物ではないからです。しかし、残念なことに、サイコノエティカルな進化成長の半分まで来ているという事実にもかかわらず、この地球ではほとんど人々はセックスについて真のエロティズムの結果ではなく、動物と同じように振る舞っています。

　人間はエロティシズムとは何かを誤解しており、それを一番低い汚れたものと解釈しています。実存の諸世界においてエロティシズムはアガピです、なぜなら一つのアガピだけが存在するからです。相対的アガピの様々なレベルについて前に述べた時、それは実際様々なレベルにおけるエロティシズムについてであり、アガピではありません。しかし勿論、人間はこれからそれを認識、理解するようになります。それゆえに私たちはアガピという言葉を使用しているですが、しかし実際にはそれはエロティシズムです。

Q：人間は真のアガピに行くことはできず、様々なレベルを通過していかねばならないのですね。

K：そうです、エロティシズムの相対的な様々なレベルを通じてです。私はアガピを非常にちっぽけなものにしています。もし私たちが言うと、アガピ、Lifeは無知の中に取り込まれてしまいます。私たちはLifeを制限ある現れの中に取り込むことはできません。ですから､現在のパーソナリティーは実際にはLifeの活性化したものであり、Lifeそれ自体ではないのです。それは影です、なぜならLifeはいずれにしても制限ある現れの中に入ることはできないからです。ですから、アガピは入ることはできません、アガピは一つです。

私はあなた方に考えて欲しいことがあります、それについて自分自身で熟考してみてください。

Lifeは全てであると言う時、Lifeは実際何をも必要としていません；それならなぜこれらの展開があるのでしょうか？なぜ創造界があるのか、なぜモナドセルフは自己実現を表現していくのか；なぜこれらのことがあるのでしょうか？

Q：しかし、それに答えるためには神の意図を知る必要があり、神に質問する私たちとは誰なのですか？

K：あなたは神の意図をどのように理解しますか？神を、そしてLifeをどのように理解しますか？しかし、私はどのような方向への刺激も与えません、なぜならそれらはレッスンの中で提供されているからです。

Q：あなたはこの質問に対して私たちがどのように答えるのを期待していますか？

K：もしあなた方が熟考するならば、今日まであなた方に与えられた知識の結果としてこの“結論”に至ることができます。

Q：あなたが自分の内側で感じるエネルギーまたはバイブレーションあるいはフィーリング、あるいはおそらく病気などをどのように区別するのですか？それはあなた自身または他の人から来るのですか？

K：あなたは誰か他の人から受け取るのです。実際、もしあなたが何であれ内側からのものを表現する準備ができていなければ、誰からも影響されることはありません。なぜなら現象的に外側から来るいかなる病気も、実際には内側にあるからです。なんであれ。それはLifeそれ自体から私たちに与えられた能力です。何であれ私たちの内側にあるLifeから提供されていないものは、いかなる人間に対しても表現されません。ですから、実際私たちに生じるどんなことに対しても誰かを非難すべきではありません。あなたがいかなる送信にも調子を合わせるような受信機でなければ、私たちは何をも受け取りません。私たちは自分の受信機の調子を合わせる必要があり、それは実際あらゆることに対して言えます。ある特定の場所に行くと、即座に例えば嫌なものを感じます。それはそれらの波動のレベルに自分の受信機を開いたことを意味します。もちろん、自分の意志で、単なる意志ではなくブレーシス（＊神の意志）によって周波数を変えることのできる人間もいます。彼等は送信と受信さえも変えることができます。しかし、もしあなたがある場所に行き、嫌な気分になれば、それはそれらの波動に調子を合わせたのです。勿論その波動は、他の人間がその特定の場所で送信しているのです。あるいはエレメンタル、送信、過去からの創造によるものなどです。そしてそれらのエレメンタルはまだ生きており、言い換えればそれらはまだエネルギーを保持しているのです。

Page 6

Q : それは誰かに共感するようなものですか？

K：もし誰かがあなたへの共感を現している時、もしあなたがそれに調子を合わせていなければ、あなたは何も受け取らず、影響されません。もしそれらの波動に調子を合わせると、影響を受けます。つまり、何であれあなたが受け取るものは、あなたのレッスンとしてあなたが受けるに価するものです。

K：ですから、何か肯定的なものを受け取る場合でも、それはあなたが獲得し、それを受け取ることができるのです。

Q：それは否定的に影響することはないのですか？

K：それは否定的に影響しないでしょう。しかし現在のパーソナリティーに否定的な影響を与えるものであっても、前に説明したように、現象的には否定的なものであってもそれはその人に価するものなのです。その人にとって益になるものです。なぜなら、それはレッスンだからです。なぜなら、レッスンを通じてLifeそれ自体からのものを私たちはもっと現すようになるからです。（＊人生における）レッスンを通じて自分の内側から神を現すようになるのです。苦しみ、痛みを通じて神を見ることができるようになるのです。私たちは自分達のゴルゴダの丘を体験しているのです。

Q：他の人々の痛みを体験することによってもそうなのですか？

K：他の人の痛みはまた私たちの痛みでもあります。

K：そうです。あなたがLifeそれ自体からより多く現せば現すほど、他の人々の痛みもまたもっともっとあなたの痛みとなるでしょう。この段階ではそれを認識するのは非常に困難かもしれません、しかしそのようになっています。なんであれあなたが誰かに行うことは、自分自身に行っているのです。

Ｑ：現在、ニューエイジになって、簡単な病気を説明するためにも他の事柄とのつながりを見いだそうとするような考えがあります。そして結局特定の病気の原因となるあらゆるネットワークとつながります。例えば、単なる胃の痛みであっても、それを治療して片付ける代わりに、人々は他のつながりを探そうとします。

Ｋ：あなたが今言ったようなことを行うことによって、流行病を引き起こすかもしれません。なぜなら、その人が否定性に自分自身を開き、それが生じるようエネルギーを与えるからです。

Ｑ：現在、私たちの身体に影響を与える無数の有機体について話しており、彼等はそれについて非常に深く研究しようとしています。その結果ヨーロッパ全体が一つになってその影響から私たちを守るためです。彼等が話しているそれらの有機体は宇宙的な数であり、しかも、わかっているのはまだ27に過ぎないそうですが、4百万ぐらいあると話していました。

Ｋ：いずれにしても、それらの病気は過去からのもので、それらに対する治療はあります。しかし、勿論新しいものも現れてくるでしょう。そのようになっているのです。なぜなら、様々な病気というものは人類の気づきの一般的なレベルを現しているからです。

Ｑ：はい、しかし時には様々な有機体に対して彼等が提供する治療は、例えば樹木その他に影響をもたらすいろいろな微生物がありますが、最終的には私たちはプラスチックのような味のするものを食べることになるのではないでしょうか。植物に与える全ての化学物質のために味のない植物になります。

Ｋ：私たちは鶏を食べなくなるでしょうか？卵も食べなくなるでしょうか？それらは食べないかもしれませんが、何かそれ以外のものを食べるでしょう。勿論、最終的には私たちにはそれほど多くの食べ物を必要としないことを発見することでしょう。

EREVNA PYR 35 KE06 1/05